

Haneda Ota Innovation Platform

# 大田区実証実験促進事業 事例集



# CONTENT

01. はじめに

02. 実証事例紹介

2-1. RYDE株式会社

2-2. 株式会社PIJIN

## 事業背景

本事業は、大田区が令和5年度に内閣府から選定された「SDGs未来都市」において掲げている「イノベーションモデル都市」の取組を推進していくに当たり、羽田イノベーションシティをHUBとしたオープンイノベーションを促進、新産業を創造することを目的としています。

本事業では、区民生活の質の向上やSDGsのさらなる推進など、区が抱える地域課題の解決に資する先進的な技術やソリューションを有するスタートアップ企業に対して、区内での実証実験を展開するための伴走支援を行います。  
単なる実証実験で終わらず、長期的なビジョンを共有し、社会実装に向けた全方位的な支援を通して本質的な成長を目指します。

本事例集を通じて、大田区の取り組みを知っていただくとともに、採択されたプロジェクトの取り組みが区内外に拡大されていくことを期待します。

## 事業概要

- 事業期間  
2024年7月5日（金）～ 2025年3月19日（水）
- 実証実験実施期間  
2025年1月～ 2025年3月
- 募集対象  
大田区内行政現場を中心とした、区内の社会課題解決に資する実証実験を区内で行うことを希望する事業者
- 募集テーマ  
下記を参考に、大田区の最新の取り組みや課題からテーマを設定し応募
  - 「大田区基本構想の実現に向けたリーディング・プロジェクト」
  - 「大田区データブック」
  - 「大田区基本構想」
- 応募資料
  - 企画提案書
  - 誓約書
  - 納税証明書
  - 登記簿謄本
- 採択プロジェクト
  - 株式会社PIJIN × 環境清掃部 清掃事業課および区民部 国保年金課（p.2-3）
  - RYDE株式会社 × まちづくり推進部 都市計画課（p.4-5）

## QR Translator®

### 世界を言語バリアフリーに

「世界を言語バリアフリーに」を企業理念に、多言語対応の【QR Translator】を開発・運営しており、多言語と音声でユニバーサルに情報の提供と収集を可能にするプラットフォーム・サービスを、国内外に提供しています。

QR Translatorは、印刷された文字情報（看板、商品、パンフレットなど）を簡単に多言語化・音声化出来る世界最初のソリューションです。

スマートフォンでQRコードを読み取ると、ユーザーの携帯端末の設定言語を自動識別して翻訳表示と音声再生を行えます。

QR Translatorの仕組みは、日本・米国・中国・EU・韓国等で特許を取得しています。

### サービスイメージ

生成されたQRコードを手持ちの携帯端末で読み取ることで、普段利用している言語に翻訳された情報にアクセスすることができます。

#### ユーザーからの見た目



QRコードを読み取ると、ユーザー端末の言語設定を識別。最適な翻訳文を自動で表示します。



#### データフロー



原稿入稿 → 翻訳（機械・クラウド）→ コンテンツ編集 → QRTコードの生成を一貫システムで実行します。



【環境清掃部 清掃事業課】

令和7年4月から新たにプラスチック分別回収を開始するにあたり、地域に在住する外国人へ分別ルールを広くわかりやすく伝えることが課題の一つになっています。

【区民部 国保年金課】

国民健康保険の外国人加入者が増加傾向にあり、制度や仕組みをどのように伝えるかが課題の一つになっています。

実施  
内容

【環境清掃部 清掃事業課】

プラスチック分別回収制度の周知にQRコードを導入。  
新しい「プラスチック分別回収」に関するルールを15言語で案内することで、外国人にもわかりやすく正確な情報を提供します。

【区民部 国保年金課】

国民健康保険料納入（変更）通知書にQRコードを導入。  
通知書の構成や見方を15言語で案内することで、外国人にもわかりやすく正確な情報を提供します。

大田区人口に対する言語カバー率、99.7%を実現。

日本語対応のみの場合96.1%であるところ、15言語で対応が進んだことで、より多くの外国人住民の方に、よりわかりやすく情報提供できる仕組みになりました。

国際都市おおた大使の皆さまからのポジティブな声

- ・外国人向けの案内通知であることが、ぱっと見てわかりやすい。
  - ・QRコードをスキャンするだけで、何の案内かわかる。
  - ・大田区がこうした多言語化に向けた取り組みを進めているのは良い。
- 等、前向きな評価をいただきました。

今後  
の  
展望

実際に手に取った外国人住民の皆さまから、今後に向けた具体的な改善案を数多くいただきました。両課では今後も引き続きQR Translatorを運用しながら、区民の皆さまからいただいた改善案を反映できる体制構築を目指します。  
また、来年度以降はQR Translatorの仕組みを他の行政案内・通知物へ横展開する検討を進めます。今後も多言語情報発信・多文化共生社会の実現に向け、住民サービスや広報物の多言語化に関する課題解決を目指してまいります。

ぜひお手持ちの携帯端末で、以下のQRコードを読み取ってみてください。



(左) 国保年金課 国民健康保険料納入（変更）通知書の説明  
(右) 清掃事業課 プラスチック分別回収に関するルールの周知



# RYDE

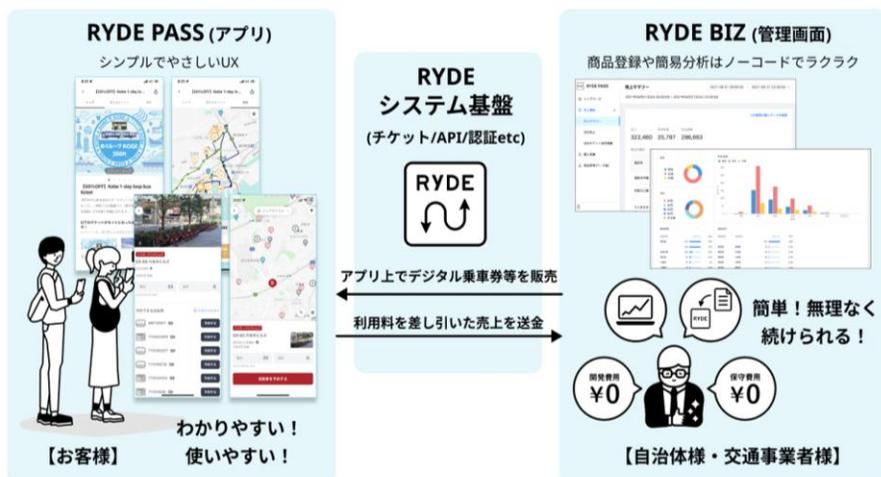
## あらゆる公共交通をRYDE PASSで

「世のため、ひとの移動のため。」をビジョンに掲げ、デジタルの力を通じて、“まちの移動”を、もっとわかりやすく、簡単に、楽しくすることで、一人ひとりの毎日をより良く、まちの未来もより良くできると信じ、日々事業に取り組んでいます。

まちの公共交通のデジタル化を通じた社会のリデザインをミッションに、地域や資本の大小に関わらず、あらゆる地域公共交通のデジタルサービス化を実現し、次世代に向け地域公共交通が変わること、そして豊かで持続可能な社会の実現に向け努めてまいります。

## サービスイメージ

公共交通をわかりやすく・簡単に利用できるアプリ「RYDE PASS」と、デジタル乗車券の販売や分析を簡単にできる「RYDE BIZ」を提供しています。



【まちづくり推進部 都市計画課】

平成20年度から地域住民や区、関係機関などが連携してコミュニティバス導入の検討を進め、平成21年10月に大田区初のコミュニティバス「たまちゃんバス」の試行運行を開始しています。現状、コミュニティバス「たまちゃんバス」の利用、支払いについてはICカードもしくは紙券のみの対応になっており、多様なニーズへの対応が必要です。また、公共交通を、いつ、どこで、誰が、どう利用しているか、沿線への経済効果、顧客満足などを分析し、施策に活用していく必要があります。

実施  
内容

【まちづくり推進部 都市計画課】

二次交通のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進する実証実験を実施。モビリティプラットフォーム「RYDE PASS」を活用し、キャッシュレスでの乗車券購入が可能になるほか、デジタル化によって取得されるデータを活用し、「たまちゃんバス」が区民の生活の質（QOL）をさらに向上させる存在となっていくことを目指します。

「たまちゃんバス」の回数券を「RYDE PASS」アプリ上で販売開始

お客様は販売窓口まで行くことなく、スマートフォンで回数券の購入から利用までを全て完結させることができるようになりました。また、大田区は取得された利用データを活用し、新たな施策に繋がります。

ご購入者様の内、早くも3名リピート購入いただきました。

販売開始から間もない状況ですが、早速10名様にご購入、その内3名様にリピートでご購入いただきました（※）。70代以上の女性ユーザーがメインユーザー層となっており、その他の年代への展開の伸びしろもまだまだ十分にございます。

※2025年1月14日～3月5日の販売実績

成果

今後の  
展望

デジタル回数券の販売は継続しつつ、引き続き、区民の皆さまのさらなるQOL向上を目指し、新たな施策を検討してまいります。具体的には、「たまちゃんバス」を初めて使う方やライトユーザーの方々へ向け、往復券・フリーパスなどの短日で利用しやすい券や、ペア・ファミリー向けの企画券などが挙げられます。今後も「たまちゃんバス」が皆さまの普段の生活・移動をさらに便利にする存在になっていくことを目指します。



「たまちゃんバス」のデジタル回数券のイメージ写真。

購入から利用をアプリ上で完結。この画面を乗務員に見せるだけで利用できます。

Haneda Ota Innovation Platform

# 大田区実証実験促進事業 事例集



令和7年3月 大田区